

Nara National Museum

奈良国立博物館 だより

第 **100** 号

平成29年 1・2・3月



国宝 刺繍釈迦如来説法図(当館)

特別陳列

おん祭と春日信仰の美術
～1月15日(日) 東新館

お水取り
2月7日(火)～3月14日(火)
東新館

特別展
(予告)

快 慶

4月8日(土)～
6月4日(日)
東・西新館

特集展示

新たに修理された文化財
～1月15日(日)
西新館

名品展

珠玉の仏教美術
～3月14日(火)
西新館

名品展

珠玉の仏たち
通期開催
なら仏像館

中国古代青銅器
通期開催
青銅器館

特別陳列

おん祭と春日信仰の美術

―特集 奈良奉行所のかかわり―

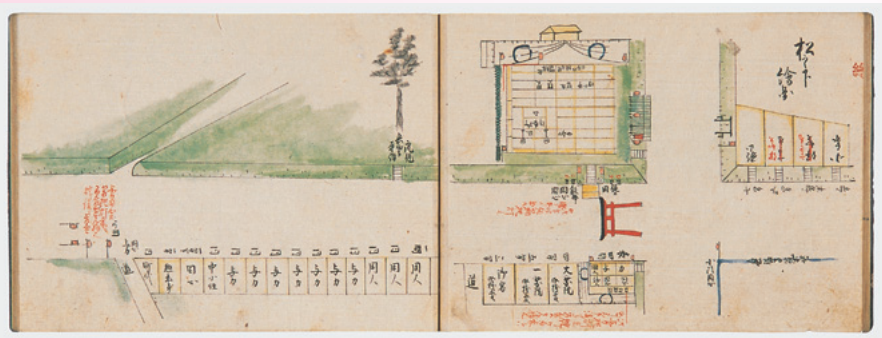
（1月15日（日））

春日若宮おん祭は、保延二年（一一三六）に始まったとされます。その後、祭日は変わっても、祭礼は絶えることなく現代まで続き、平成二十八年で八八一回を迎えました。おん祭では、春日社の若宮神が御旅所^{おたびしよ}に一日だけ遷座^{せんざ}されますが、そこに芸能者や祭礼の参加者が詣^{もつ}でる風流行列^{ふうりゅうぎょれつ}が有名です。

本展覧会は、おん祭の歴史と祭礼の様子を展示する、恒例の企画です。今回は、華やかな風流行列の様子を描く絵巻を多く展示するとともに、江戸時代のおん祭を支えた奈良奉行所^{ならぶぎょうしよ}のかかわりを示す資料をご紹介します。



春日鹿曼荼羅（奈良・東九条春日元講）



春日若宮祭礼書類(京都大学附属図書館)

特集展示

新たに修理された文化財

（1月15日（日））

長い歴史を経て今に伝わる文化財は、その多くが過去に人の手による修理を受けながら大切に保存されてきたものです。当館では、これらの文化財をさらに未来へと継承していくために、絵画・彫刻・書跡・工芸・考古の各分野の収蔵品（館蔵品・寄託品）について毎年計画的に修理を実施しています。

本特集展示は、近年修理を受けた収蔵品の中から選りすぐった作品を展示公開し、あわせてその修理内容をパネルで紹介するものです。



国宝 刺繍釈迦如來說法図(勸修寺繡帳)(当館)の修理の様子

特別陳列

お水取り

2月7日(火)～3月14日(火)

奈良に春を呼ぶ年中行事として知られる「お水取り」は東大寺の二月堂で行われる仏教法会です。正式には「修二会」といい、二月堂本尊の十一面観音に罪過を懺悔し、五穀豊穡と除災招福を祈る「悔過」を行うものです。修二会の本行は毎年三月一日から十四日まで行われ、その間、心身を清めた僧（練行衆）が本尊の前で宝号を唱え、荒行によつて懺悔し、あわせて天下安穩などを祈願します。修二会は、天平勝宝四年（七五二）、東大寺の実忠和尚の創始と伝えられ、以来、一度も欠かされたことのない「不退の行法」として今日まで毎年実施され続けてきました。本展は、毎年、東大寺でお水取りが行われるこの時期にあわせて開催する恒例の企画です。実際に法会で用いられた法具や、歴史と伝統を伝える絵画、古文書、出土品や、二月堂内陣を再現した模型など、お水取り（修二会）への理解を深めていただく展示構成となっております。



二月堂縁起（上巻第四段） 奈良・東大寺



東大寺縁起 その二（部分） 奈良・東大寺



◎香水杓 奈良・東大寺

特別展（予告）

快慶

4月8日(土)～6月4日(日)

快慶は、わが国を代表する仏師のひとりであり、鎌倉彫刻様式の完成に重要な役割を果たした人物として運慶と並び称されてきました。快慶には確証ある遺品が際立つて多く、鎌倉時代初頭の造像界の動向を具体的に知るうえで不可欠な存在である一方、出自や工房など、その人物像には不明な点が少なくありません。

本展は、快慶の代表的な作品を一堂に集めて、わが国の仏教美術史上に残した偉大な足跡をたどる試みです。さらに、快慶作品の成立と密接に関わる絵画や、高僧たちとの交渉を伝える資料をあわせて展示することにより、いまだ多くの謎に包まれた快慶の実像に迫ります。



●僧形八幡神坐像 奈良・東大寺

生涯800年記念特別展「忍性―救済に捧げた生涯―」

(平成二十八年七月二十三日～九月十九日)

忍性さんにお会いしました。

筑波大学名誉教授 根本 誠二

日本古代の仏教、ことに奈良時代の仏教は、次の時代には南都仏教と通称されましたが、その「キョウテン」(教理・教学)はとかく難解であるとの評価に満ちています。しかし、南都仏教は人々の苦を救ってやまない仏教者を輩出したことでも知られています。いわゆる社会事業史上、顕著な事例を語ることができると思っています。その代表格が、今回の特別展(以下、忍性展とします)の主役の忍性さん(一一一七―一三〇三)です。忍性さんに関する研究は、社会事業史からの研究はもとより、戒律復興・文殊菩薩信仰など多くの分野からの研究に満ちあふれています。いわゆる生涯とその活動(行実ともいう)をめぐる研究によって、難解とされる南都仏教のイメージを払拭するに十分な存在感を持っています。



展示室の様子

こうした先学の研究によって解明しつくされた観のある忍性さんの行実について、今回の忍性展では、従来の研究成果を丹念にトレースし、奈良県の額安寺・竹林寺・西大寺、神奈川県鎌倉市の極楽寺、茨城県つくば・土浦の両市などに散在する関係寺院の文物の展示だけではなく、奈良・神奈川の両県の三カ所に点在する忍性さんの墓所についての展示を初めて実現しました。いわば、忍性さんの行実を裏付ける遺跡(ゆいせき)を文献資料・美術作品のみならず考古資料をも視野に入れてトレースしています。

加えて、それらの遺跡と忍性さんと関係する奈良時代の僧侶の存在を、「モノ」(美術・考古資料)と「モジ」(文献資料)をめぐる素材で明らかにしています。

す。例えば、額安寺にみる忍性さんの師である観尊さん(一一二〇―一〇九〇)が修復した道慈さん(？―七四四)ゆかりの虚空蔵菩薩坐像、竹林寺にみる行基さん(六八八―七四九)の墓所に関わる行基墓誌銘の断片や、唐招提寺に伝存しています。行基菩薩像などの「モノ」の展示です。道慈さんと行基さんの展示によって、忍性さんの先師に対することさらな崇敬の念を見事に明らかにしています。それは、まさに南都仏教の前身である奈良仏教をになった僧侶との関係を物語るもので、忍性さんが、彼らから何を学び継承したかをしめすに十分でした。ことに行基さんと忍性さんとの関係は、母へのことさらな孝養のさまと行基墓誌銘と忍性さんの墓誌銘との文章がよく似通っていることからする二人の親密な信仰的な結びつきを感じざるを得ませんでした。たとえそれが文殊菩薩が結ぶ「縁」であったにせよ、それ以上の関係を想定するのは、私だけではないと思いました。そこには、忍性さんの眼に描かれた確かな行基像がうかがえました。さらには鑑真さん(六八八―七六三)をめぐる唐大和上東征絵伝にも同様な新鮮な感慨を禁じませんでした。

奈良仏教者の行実を「モジ」のみで二次元的に詮索している私にとっては、「キョウテン」・「モジ」・「モノ」が三位一体となっています。忍性展は刺激に満ちた機会で、新たな視点を提供して頂いたように思います。

会場に静かに流れるDVDアニメーション「笑顔のお坊さん 忍性 すべては、母から始まった。」のナレーションと展示品の一つ一つがデータとして一つのものとなり、拝見された方々には、「イメージ」という3Dプリンターを動かして忍性さんのフィギュアが造形されていたように思います。そのフィギュアは、数々の文殊菩薩像と二重写となり、忍性さんのお姿をより鮮明に拝見された方々の眼の奥底に投影されていたように思います。

忍性展は、私も勝手に称している霊楽・南都学の聖地の奈良国立博物館の真摯な研究姿勢の所産で、これまでの人物を主体とした展示の成果の反映と延長線上にあることは言うまでもありませんが、昨今の文科の世界の困難な状況にありながら奈良国立博物館がもつシタタカな発信力の象徴でもあると思いました。今後も、奈良・南都仏教への親しみをます企画に果敢に挑戦されることを心からお願いいたします。

忍性さんの遺跡の一つがある三村山の所在するつくば市在住者の乱筆・乱文にご海容と何よりも忍性さんにご一読をこいねがいつつ、拝見記を擲筆させて頂きます。私事ですが、奈良公園や日吉館の周辺を徘徊して聖地への巡礼を今しばらく続けさせていただければ、幸甚幸甚です。

出陳一覽

名品展

珠玉の仏たち

なら仏像館

彫刻

【第1室】

大将軍神坐像
藏王権現立像
地藏・龍樹菩薩坐像
毘沙門天立像
南無仏太子立像

【第2室】

獅子
獅子
観音菩薩立像
観音菩薩立像
観音菩薩立像

【第3室】

宝冠阿弥陀如来坐像
阿弥陀如来坐像
阿弥陀如来坐像
阿弥陀如来立像
阿弥陀如来立像

【第4室】

菩薩坐像
侍者坐像
天部坐像
薬師如来坐像
文殊菩薩坐像

【第5室】

仏手(薬師如来立像右手)
誕生釈迦仏立像
誕生釈迦仏立像
如来立像
菩薩立像

【第6室】

勢至菩薩立像
不動明王立像
大威徳明王騎牛像
薬師如来坐像
如来立像

【第7室】

千手観音菩薩立像
光背(二月堂本尊所用)
十一面観音菩薩立像
十一面観音菩薩立像
十一面観音菩薩立像

観音菩薩立像 個人
十一面観音菩薩立像 個人
力士立像 個人
如来立像 個人
如来立像 個人
薬師如来坐像 個人
大威徳明王騎牛像 個人
不動明王立像 個人
勢至菩薩立像 個人
阿弥陀如来立像(裸形) 個人
釈迦如来立像 個人
獅子 個人
象 個人
如来三尊像 個人
如来三尊像 個人
天部立像 個人
如来立像 個人
阿弥陀如来坐像 個人
宝冠阿弥陀如来坐像 個人
如意輪観音菩薩坐像 個人
薬師如来坐像 個人
海住山寺
妙法院
東大寺
勝林寺
新薬師寺
薬師寺
園城寺
元興寺
興福寺
当館
室生寺
金剛寺
泰雲院
十市町自治会
弘仁寺
文化庁
大福寺
新薬師寺

【第10室】
不動明王立像 当館
愛染明王坐像 当館
不動明王坐像 個人
五大明王像 個人
不動明王立像 個人
十二神將立像(午神・亥神) 当館
四天王立像 当館
天津皇子坐像 当館
龍神像 藥師寺
狛犬 與喜天満神社
男女神坐像 当館
男神坐像 觀音寺
童子形坐像 当館
【第12室】
阿弥陀如来立像(善光寺式) 善光寺
菩薩坐像 文化庁
帝釈天坐像 室生寺
十二神將立像(辰神・未神) 室生寺
如来倚像(押出仏) 当館
観音菩薩立像(押出仏二面) 当館
吉祥天倚像 当館
地藏菩薩立像 当館
僧形立像 当館
十一面観音菩薩立像 当館
毘沙門天立像 当館
蔵王権現立像(五軀) 大峯山寺
破損仏像残欠コレクション 当館

名品展

珠玉の仏教美術

3月14日(火)

絵画

伊勢両宮曼荼羅

雨宝童子像

熊野本地仏曼荼羅

熊野本地仏曼荼羅

生駒宮曼荼羅

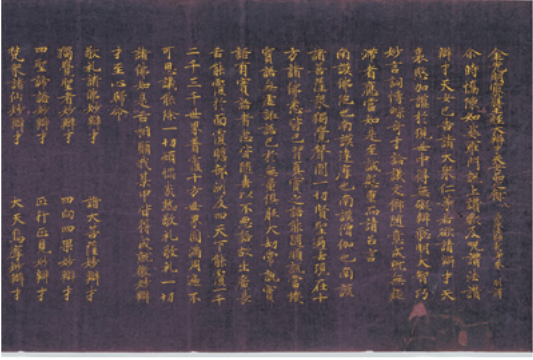
生駒宮曼荼羅

役行者像

吉野曼荼羅 当館
日高山王垂迹神曼荼羅 当館
高野四所明神像 当館
三十番神像 個人
藤原鎌足像 個人
藤原鎌足像 個人
東大寺八幡縁起 水室神社
最勝曼荼羅 水室神社
五秘密曼荼羅 個人
紅玻璃阿弥陀像 長命寺
十卷抄 当館
理趣経曼荼羅図像 当館
一字金輪曼荼羅 当館
一字金輪曼荼羅 当館
尊勝曼荼羅 南法華寺
尊勝曼荼羅 個人
八大仏頂曼荼羅 園城寺
七髻文殊像 松尾寺
普賢延命像 宝寿院
五大明王像 当館
五大明王像 当館
不動明王八大童子像 一乗寺
不動明王二童子像 瑠璃寺
俱利伽羅龍刻二童子像 当館
両頭愛染曼荼羅 当館
愛染明王像 個人
愛染明王像 個人
子鳥曼荼羅模写 文化庁
釈迦三尊十六羅漢図 海住山寺
普賢菩薩像 当館
釈迦八相図 大福田寺
仏涅槃図 達磨寺
仏涅槃図 正暦寺
八相涅槃図 長命寺
十六羅漢図 劔神社
五百羅漢図 宝蔵寺
弥勒菩薩像 大徳寺
弥勒菩薩像 現光寺

【書跡】

弥勒来迎図 当館
覚輝鈔 弥勒法 勸修寺
八天像 東福寺



●金光明最勝王經 卷第八 (当館)

1月9日(月・祝)

金光明最勝王經(紫紙金字)卷第六 当館
華手經 卷第十二(五月一日經) 当館
中阿含經 卷第九(善光朱印經) 当館
法華經(一品經)方便品第二 浅草寺
法華經(一品經)目録門葉記 長谷寺
尊巴親王御山拝堂記 当館
青蓮院寺領目録門葉記 当館
日本書紀 卷第十(殘卷) 当館
金光明經文句卷下(智証大師關係文書典範) 園城寺
染田天神講連歌關係資料 染田区
1月11日(水)2月5日(日)
金光明最勝王經(紫紙金字)卷第七 当館
維阿含經 卷第三十九(五月十一日經) 金剛峯寺
賢愚經 卷第十五(大聖武) 東大寺
仏母大孔雀明王經 卷下(中尊寺經) 金剛寺
法華經(一品經)如来寿量品第十六 慈光寺
雜見集 当館
如意輪法 当館
不動護摩次第 当館
立川流儀軌 当館
聖徳太子伝暦 本願寺
染田天神講連歌關係資料 染田区

〔2月7日(火)〕〔3月14日(火)〕

- 金光明最勝王經(紫紙金字)巻第八 当館
- 法集經巻第三(五月一日經) 当館
- 大般若經巻第五百八十八(魚養經) 当館
- 大毘盧遮那成佛神變加持經巻第四(消息經) 当館
- 法華經(一品經)法師功德品第十九 慈光寺
- 大般若經(中尊寺經) 金剛峯寺
- 遺跡講式 当館
- 涅槃講式 当館
- 涅槃講式(八相涅槃圖附屬) 劍神社
- 造東大寺司牒 当館
- 阿彌陀悔過料資財帳 東大寺
- 染田天神講連歌関係資料 染田区

〔工芸〕



○大神宮御正体 (室生寺)

- 〔1月9日(月・祝)〕
- 牛皮華鬘 当館
- 尾長鳥文華鬘 当館
- 仏餉鉢 金剛峯寺
- 鉢 都々古別神社
- 金山寺香炉 当館
- 香盆 聖衆来迎寺
- 牡丹文香合 当館
- 獅子牡丹文香合 個人
- 釣燈籠 当館
- 山王十社本地懸仏 当館
- 十一面三尊懸仏 当館
- 熊野三所権現懸仏 個人
- 熊野十二社権現御正体 当館
- 四枚居木鞍 手向山八幡宮
- 海松円文鞍 手向山八幡宮
- 三鼓胴 手向山八幡宮
- 奚妻鼓胴 龍田神社
- 二帶笠 談山神社

〔1月11日(水)〕〔2月5日(日)〕

- 室 当館
- 太刀 銘義憲作 石上神宮
- 太刀 無銘 石上神宮
- 太刀 銘助宗 八幡神社
- 脇差 銘備州長船義景 談山神社
- 王子形水瓶 当館
- 王子形水瓶 当館
- 仙巖形水瓶 当館
- 仙巖形水瓶 当館
- 仙巖形水瓶 当館
- 仙巖形水瓶 当館
- 布薩水瓶(魚口形) 当館
- 布薩水瓶 当館
- 信貴形水瓶 当館
- 信貴形水瓶 個人
- 宝塔 当館
- 宝塔 当館
- 三重小塔 当館
- 三重小塔 当館
- 密観宝珠嵌装舍利厨子 金剛山寺
- 摩尼宝珠曼荼羅時絵厨子 個人
- 仏餉鉢 金剛峯寺
- 鉢 都々古別神社
- 金山寺香炉 長谷寺
- 牡丹尾長鳥堆黒盆 金地院
- 獅子牡丹文香合 個人蔵
- 人物楼閣文香合 当館
- 釣燈籠 当館
- 愛染明王香合仏 当館
- 愛染明王香合仏 当館
- 大神宮御正体 室生寺
- 山王十社本地懸仏 当館
- 十一面三尊懸仏 当館
- 熊野三所権現懸仏 個人
- 熊野十二社権現御正体 当館
- 転法輪筒 当館
- 五智宝冠 当館
- 金鉢 真光寺
- 四枚 当館
- 割五鉢杆 当館
- 四大明王五鉢鈴 当館
- 五鉢鈴のうち独鉢鈴・三鉢鈴・宝珠鈴 当館
- 五鉢鈴 当館
- 塔鈴 当館
- 舍利容器 当館
- 舍利容器 当館
- 棺形舍利容器 当館
- 層塔形舍利容器及び内容器 当館
- 宝塔形舍利容器 当館
- 宝篋印塔形舍利容器 聖林寺
- 五輪塔 個人
- 蓮台形舍利容器 当館
- 火焰宝珠形舍利容器 個人
- 能作性塔 当館
- 牛玉像 海住山寺
- 獅子座火焰宝珠形舍利容器 金剛寺
- 金龜舍利塔 長谷寺
- 大神宮御正体 室生寺
- 宝篋印塔嵌装舍利厨子 福田寺
- 赤地蓮池水禽文鏡打敷 般若寺

〔考古〕

〔3月14日(火)〕

- 太刀 銘助宗 八幡神社
- 脇差 銘備州長船義景 談山神社
- 〔2月7日(火)〕〔3月14日(火)〕
- 卓 東大寺
- 三脚卓 当館
- 円机 当館
- 金山寺香炉 長谷寺
- 牡丹尾長鳥堆黒盆 金地院
- 獅子牡丹文香合 個人
- 人物楼閣文香合 当館
- 迦陵頻伽文華鬘 中尊寺金色院
- 転法輪筒 当館
- 五智宝冠 当館
- 金鉢 真光寺
- 四枚 当館
- 割五鉢杆 当館
- 四大明王五鉢鈴 当館
- 五鉢鈴のうち独鉢鈴・三鉢鈴・宝珠鈴 当館
- 五鉢鈴 当館
- 塔鈴 当館
- 舍利容器 当館
- 舍利容器 当館
- 棺形舍利容器 当館
- 層塔形舍利容器及び内容器 当館
- 宝塔形舍利容器 当館
- 宝篋印塔形舍利容器 聖林寺
- 五輪塔 個人
- 蓮台形舍利容器 当館
- 火焰宝珠形舍利容器 個人
- 能作性塔 当館
- 牛玉像 海住山寺
- 獅子座火焰宝珠形舍利容器 金剛寺
- 金龜舍利塔 長谷寺
- 大神宮御正体 室生寺
- 宝篋印塔嵌装舍利厨子 福田寺
- 赤地蓮池水禽文鏡打敷 般若寺
- 赤漆塗舟形木製品(山形県小山崎遺跡出土) 当館
- 深鉢(網取口式)(山形県小山崎遺跡出土) 当館
- 深鉢(新地式)(山形県小山崎遺跡出土) 当館
- 火焰型土器(山形県柴燈林遺跡出土) 当館
- 人面付銅戈(伝・福岡県出土) 当館
- 銅戈鑄型(伝・福岡市八田出土) 当館
- 磨製石剣(伝・福岡県田川出土) 当館
- 以上、福岡市博物館

●丹塗磨研土器(城の原遺跡出土)

●丹塗器台(那珂遺跡出土)

●貝輪(金隈遺跡出土)

●貝輪(諸岡遺跡出土)

●薨棺(吉武遺跡出土)

以上、福岡市埋蔵文化財センター

金製耳飾他(奈良県星塚古墳出土) 当館

人物線刻文装飾須臾器 当館

軒丸瓦・軒平瓦(法隆寺出土) 法隆寺

隅木蓋瓦・風鐸 当館

●鬼面文鬼瓦(伝奈良大安寺出土) 個人

●粟原寺三重塔伏鉢 談山神社

六角形埴土(三重県天華寺遺跡出土) 当館

火頭形三尊埴土(伝奈良県橘寺遺跡出土) 当館

塑像片(奈良県原寺裏山遺跡出土) 当館

●塑像片(奈良県栗原寺西塔出土) 栗原寺

瓦塔・静岡県浜松市(旧三ヶ日町)出土) 当館

●山代忌寸真作墓誌 当館

●佐井寺僧道葉墓出土品(墓誌・骨蔵器) 当館

銅製骨蔵器(奈良県葛城市出土) 当館

灰釉骨蔵器(茨城県石岡市出土) 当館

●青磁牡丹草文深鉢(奈良県正暦寺出土) 正暦寺

●特集展示「金峯山経塚出土品」

●銅製鍍銀鏡箱・金銅製経箱台残欠 金峯神社

〔奈良県金峯山経塚出土〕

●法華經・無量義經(藤原道長願經)

〔奈良県金峯山経塚出土〕 金峯神社

●法華經・無量義經(藤原通願經)

〔奈良県金峯山経塚出土〕 金峯神社

●線刻蔵王権現鏡像

〔奈良県金峯山経塚出土〕 金峯山寺

金銅三鉢杆(奈良県弥山山頂出土) 当館

銅板経(奈良県金峯山経塚出土) 当館

蔵王権現像および神像断片 当館

〔奈良県金峯山経塚出土〕 当館

銅製品断片 当館

〔奈良県金峯山経塚出土〕 当館

鏡像(奈良県金峯山経塚出土) 当館

銅鏡(奈良県金峯山経塚出土) 当館

※は考古資料相互活用促進事業による出品

※●●国宝、●●重要文化財

※展示品は都合により一部変更する場合

があります。

名品展

中国古代青銅器(坂本コレクション)

青銅器館

中国古代の商(殷)から漢代に製作され

た、青銅器の逸品を展示しています。

〔表紙写真解説〕

国宝 刺繡釈迦如来説法図

(勸修寺繡帳)

絹製 刺繡 中国唐または飛鳥(奈良時代七〜八世紀)

縦二一・〇 横一六・〇(修理後)

赤い衣を着た釈迦が、樹下で説法する様子を刺繡で表す。京都の勸修寺に伝来したことから勸修寺繡帳の名で通るが、製作年代は寺の創建を遡り、当初の状態がうかがわれる上代繡仏の貴重な遺例として、美術史上揺るぎない価値を持つ。

平成二十四〜二十七年度に解体修理が行われ、表装裂の下に隠れていた図様が見出されるなど多くの知見が得られた。

◆特集展示「新たに修理された文化財」にて1月15日まで展示

(当館学芸部工芸考古室長 清水 健)

❖ 公開講座 ❖

■特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」

1月15日(日)「奈良奉行と春日若宮祭礼」

大宮 守友氏(一般財団法人 氷室神社文化興隆財団代表理事)

■特別陳列「お水取り」

2月18日(土)「修二会(お水取り)」

筒井 寛昭師(東大寺長老)

【時 間】13:30～15:00(13:00開場)

【会 場】当館講堂(定員194名)

- * 12:00から当館講堂前にて入場整理券(お1人様につき1枚)を配付します。配布は講座開始30分後に終了します。
- * 入場整理券の受取の際には、本展の観覧券もしくはその半券、国立博物館パスポート等をご提示ください。

❖ サンデートーク ❖

美術や歴史のこと、博物館の活動など、当館ならではの多彩なテーマ、日頃聞くことの出来ない「通」なお話をご用意して、皆様をお待ちしております。どうぞお気軽にご参加下さい。

■1月8日(日)「海を渡った鏡」

中川 あや(当館学芸部主任研究員)

日本にもたらされた中国の唐鏡・宋鏡や、朝鮮半島にもたらされた日本の平安鏡など、海を渡って異国に運ばれた鏡と、その歴史的な背景について紹介します。

■2月19日(日)「法螺話」

清水 健(当館学芸部工芸考古室長)

法螺は山伏が儀式などの際に高らかに吹くことでよく知られておりますが、仏教との関わりはそれだけではありません。日本の仏教と法螺との関わりについてお話致します。

■3月19日(日)

「奈良県技師が生んだ名建築

仏教美術資料研究センター(旧奈良県物産陳列所)の魅力」

宮崎 幹子(当館学芸部資料室長)

奈良国立博物館の隠れた名建築、仏教美術資料研究センター(旧奈良県物産陳列所)について見どころをご紹介します。建築家の創意工夫のつまったこの建築の魅力を再発見してみましょう。

■4月16日(日)

「文化財修理の現場から～

津波による被災紙資料を中心として～」

大江 克己(当館学芸部研究員)

地震や津波などの災害は人々に多くの被害を与えます。文化財も同様で、被災した文化財には被害状況にあわせた修理処置が必要です。今回は、津波により被災した紙資料の修理についてお話をします。

■5月21日(日)「星曼荼羅の源流をめぐって」

谷口 耕生(当館学芸部教育室長)

人の運命を司るとされる夜空の星々に対する信仰は、星曼荼羅(北斗曼荼羅)と呼ばれる特殊な密教画像を生み出しました。その画像上の源泉を、中国の星宿神図像の中に探ります。

■6月18日(日)「奈良時代の福祉制度」

野尻 忠(当館学芸部企画室長)

奈良時代には、律令法に基づく様々な福祉制度がありました。障害者への税の減免、高齢者や重度障害者を介護する家族への減税措置、稲の不作時における税の免除、災害時の緊急食料支給など。これらについて、制度と実態の両面から概観します。

【時 間】各回とも14:00～15:30(13:30開場)

【会 場】当館講堂

【定 員】194名(先着順)

- * 聴講無料(入場には入場整理券が必要です)
- * 12:30から当館講堂前にて、入場整理券(お1人様につき1枚)を配付します。配布は講座開始30分後に終了します。

❖ イベント情報❖

■「新春企画」 博物館からのお年玉

新春企画として、なら仏像館へ入館されたお客様各日先着250名様にオリジナル葉をお渡します。葉に当たりシールが付いていたお客様には、博物館からのお年玉として当館非売品グッズ詰め合わせをプレゼントいたします。

【日 時】1月2日(月)、3日(火) 両日とも9:30～

※定員に達し次第終了

【場 所】なら仏像館 展示室入口

【対 象】上記日時になら仏像館へ入館されたお客様
各日先着250名様

※新館での葉配布は行いませんのでご注意ください。

■春日大社境内にておん祭展無料券付き小型チラシ配布

期間中に春日大社で配布される小型チラシをご持参の方は、この4日間に限り、おん祭展を無料で、なら仏像館を割引料金にてご覧頂けます。

【実施日】1月2日(月)～5日(木)

■お水取り「講話」と「粥」の会

【日 時】2月11日(土) 10:00～16:00頃

【定 員】40名(先着順)

【集合場所】当館 講堂

【料 金】5,000円

【内 容】

- ①東大寺森本公誠長老による講話
- ②特別陳列「お水取り」の観覧
(解説:岩井共二 当館学芸部情報サービス室長)
- ③童子が作る茶粥の試食
- ④東大寺二月堂の拝観
(随行:岩井共二 当館学芸部情報サービス室長)

【申込方法】当館ホームページの申込画面又はお電話にて。

※受付は1月5日(木)から開始

問い合わせ先:総務課企画推進係 電話:0742-22-4450

(祝日を除く月～金の10:00～17:00 ※12月29日～1月3日は除く)

◆奈良国立博物館パスポート販売終了と 新制度販売開始のお知らせ

独立行政法人国立文化財機構の運営上の都合から、この度、奈良国立博物館パスポートを平成29年3月31日(金)で販売終了し、平成29年4月1日(土)より新制度「国立博物館メンバーズパス」、「奈良博プレミアムカード」の販売を開始する事になりました。詳しい情報は、当館ホームページをご覧ください。詳しくは、当館ホームページをご覧ください。

※現在、お客様がお持ちのパスポートおよび平成29年3月31日(金)まで販売するパスポートにつきましては、券面に記載の有効期限までご利用いただけます。

◆奈良国立博物館賛助会

平成28年12月31日現在、一般会員(個人)48名、一般会員(団体)17団体、特別会員4団体、特別支援会員4団体のご入会をいただいております。

【一般会員(個人)】 松下 尉 様(平成28年10月ご入会)

◆キャンパスメンバーズ

平成28年12月31日現在、「キャンパスメンバーズ」会員の大学等は以下の通りです。

大阪大学、関西大学、関西大学第一高等学校、関西大学北陽高等学校、関西大学高等部、京都外国語大学、京都外国語短期大学、京都教育大学、京都教育大学附属高等学校、京都工芸繊維大学、京都嵯峨芸術大学、京都嵯峨芸術大学短期大学部、京都精華大学、京都大学、京都橘大学、近畿大学文芸学部、近畿大学大学院総合文化研究科、就実大学人文学部、帝塚山大学、天理大学、同志社大学、同志社女子大学、同志社高等学校、同志社香里高等学校、同志社女子高等学校、同志社国際高等学校、奈良学園大学、奈良文化女子短期大学部、奈良文化高等学校、奈良学園高等学校、奈良学園登美ヶ丘高等学校、奈良教育大学、奈良県立大学、奈良工業高等専門学校、奈良佐保短期大学、奈良女子大学、奈良先端科学技術大学院大学、奈良大学、佛教大学、立命館大学、立命館大学大学院、龍谷大学、龍谷大学短期大学部 (以上、五十音順)

から くさ もん のき ひらがわら
パルメット唐草文軒平瓦
 (法隆寺若草伽藍出土品)



現存幅28.0cm 厚5.7cm
 飛鳥時代(7世紀)
 奈良 法隆寺

法隆寺創建期の「若草伽藍」の堂塔に葺かれた軒平瓦。唐草文様は焼成前の粘土に直接手彫りされている。この軒平瓦、世界の瓦の歴史の中で、とても重要な意義を持つものなのである。

日本の瓦葺き建物は、寺院に初めて現れた。『日本書紀』によると、崇峻天皇元年(588年)、僧や瓦博士ら四人の技術者が百濟より来日し、飛鳥寺(法興寺)の造営が始まった。飛鳥寺創建期の軒瓦(軒先を飾る専用の瓦)を見ると、軒丸瓦は蓮花文様を有する一方、軒平瓦は存在せず、平瓦を二枚重ねることでその用を足していたようだ。つまり、日本最初の瓦屋根の軒先には、軒丸瓦にのみ文様が施されていたことになる。

飛鳥寺竣工後、程なくして始まったであろう法隆寺若草伽藍の造営に際して、一つの画期的な出来事が起きた。日本のみならず、世界で初めて、軒平瓦にも文様を施すアイデアが生まれたのである。ただし、飛鳥寺の軒丸瓦のように、木型を用いる方法ではなく、文様を手彫りで表す方法であった。弧状の木型を作り出す発想がなかったのか、技術がなかったのかはわからない。しかし、伽藍の複数の建物に葺かれた軒平瓦は数百に及ぼう。一点一点彫り上げるのに要したであろう時間は、想像もつかない。

本品の唐草文をじっくり観察してみると、彫りが深く、重厚な感じを受ける。初めての試みとして、文様をしっかりと刻もうとしたのだろうか。一方で蔓の流れはどことなくぎこちない。瓦に文様を手彫りする技術は百濟にもみあたらず、熟練の技術者などいなかったためかもしれない。

中川 あや(当館学芸部主任研究員)

◆西新館名品展「珠玉の仏教美術」にて3月14日まで展示

展示品の
 みどころ

りょう ず あい ぜん まん だ ら
両頭愛染曼荼羅

絹本着色
 縦91.9cm 横39.3cm
 南北朝時代(14世紀)
 当館

愛欲と煩惱を象徴する愛染明王、一切の魔を降伏する不動明王という二つのほとけが複雑に合体した忿怒尊。一つの体に二つの顔、六本の手をもつという妖しいその姿は、鮮烈な赤の色彩と相まって見るものを魅惑してやまない。

二頭一身の愛染明王は、金剛界と胎藏界、理と智、男性と女性など、相対する原理が不二であることを体現する尊格とされており、とりわけ本図のように左面を不動、右面を愛染とするのは醍醐寺僧勝賢の説といわれる。さらに画面上方に文殊菩薩や星宿とみられる円輪、北斗七星を配するなど、他に例を見ない極めて特色ある図像を採用する点も大変注目される。醍醐寺を中心とする真言宗小野流では、頭上に北斗七星を配する愛染明王像や、文殊菩薩を中尊とする北斗曼荼羅が流布したとことが知られており、本図のような愛染明王信仰と星宿信仰が複雑に交錯する図像も、恐らく小野流に近い環境の中で生み出されたのだろう。

その一方、両頭愛染明王を背に乘せる獅子は、目を大きく見開き、大きな口で三鈷杵をくわえながら愛嬌ある表情を浮かべており、主尊の二つの顔に表れる恐ろしい忿怒相と好対照をなしている。さらに画面下方に描かれる不動明王の二人の使者、象に乗る矜羯羅童子と獅子に乗る制吒迦童子の姿は、射的に興じるわんぱく少年のようでなんと愛らしい。真言密教の秘奥を極めた図像でありながら、劇画のようなユーモアあふれる誇張された表現にこそ、本図の最大の魅力があるといっても過言ではない。

谷口 耕生(当館学芸部教育室長)

◆西新館名品展「珠玉の仏教美術」にて1月11日から2月5日まで展示



開館日時(1月~3月)

■開館時間／午前9時30分~午後5時

- ・金・土曜日は午後8時まで
- ・なら瑠璃会の期間(2月8日~14日)は午後8時30分まで
- ・東大寺二月堂修二会(お水取り)の期間中、3月1日、2日、5日~9日、13日、14日は午後6時まで、3月12日は午後7時まで
- ※いずれも、入館は、閉館の30分前まで

■休館日／毎週月曜日、1月1日(日)

- ・ただし、1月2-9日、2月13日、3月6・13-20日は開館し、1月10日(火)、3月21日(火)は休館

●=国宝、○=重要文化財

観覧料金 名品展・特別陳列・特集展示

	一般	大学生	高校生以下
個人	520円	260円	無料
団体	410円	210円	無料

- ※団体は20名以上です。
- ※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。
- ※1月の開館延長日の午後5時以降に観覧される方は団体料金を適用します。(レイト割引)
- ※成人の日(1月9日)は、新成人の方は無料です。
- ※節分の日(2月3日)は無料観覧日です。
- ※毎月22日にご夫婦で観覧される方は、各半額となります。
- ※中学生以下の方と一緒に観覧される方は、団体料金を適用します。(子どもといっしょ割引)



[交通案内]近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス(外回り)「氷室神社・国立博物館」下車

※当館には駐車スペースがございませんので最寄りの県営駐車場等(有料)をご利用ください。